



# 生きる

感動いっぱい 夢いっぱい  
いのちいっぱい

こんな生徒を育てたい...「学校教育目標」

百日草～星野富弘～  
二度と来ない 今日というこの日  
この一日を  
百日のように生きたい

星野富弘さんは、おととし中学校の体育の先生で、部活動指導中、鉄棒模範演技の時に転んで落下し、首の下の機能が働かなくなりました。歩くことも手をのびることもできなくなりました。車いすとバッドの上での生活の中で、星野さんは水彩画に詩をのせた作品をつくりあげていきました。手足の自由を失っても筆を口に含ませたく星野さんの作品には「強い生命」を感じます。人生を悲観することなく、前向きに強く生きる姿、そして多くの人々に勇気や希望を与えるメッセージ... 私はずっと星野さんの生き様に魅了されてきました。菊池北中の学校教育目標は「生きる」です。

詩と水彩画による作品を多く残された星野さんの作品の中で一番好きは「百日草」です。

学校教育目標「生きる」に込められた願いを伝えます。2026年、11月11日の目標にして下さい。

- 11月11日! 私は勉強です。義務教育の中学三年で、自分の夢を生きるの土台とつくりと固めてほしいと思います。そのためには、しっかり学ぶことです。自分らしく、日々の積み重ねと努力により、自分らしく切り拓いていってください。～夢の実現に向けて～
- 11月11日! 学年、学級が9月からの斜と大切にする。北中では、周りに迷惑を掛けない、人を傷つけない、11月の生活を送ることを許し合え。豊かな学校生活を送るために最も大切はことです。果敢と必死に、成り遂げる達成感と和をいじめ。～感動ある一年に～
- 11月11日! この学年(学級)でやった、北中生徒でやった、そこから思える一年にしてください。2026年を出会い、全7月のが、一生の宝と見守り、一日一日大切に生きていってください。～いのち輝かせて～

令和八年度  
学校教育目標

# 生きる



百日草 ～星野富弘～  
二度と来ない 今日というこの日  
この一日を 百日のように生きたい

感動いっぱい 夢いっぱい いのちいっぱい

自分が命がけ(一生懸命)になって生きていることに間違いはありません。自分らしく生きていき、そんな自分に納得し、そんな自分を好きになる。そんなみんなになってほしいと思っています。サブテーマに掲げた3つのキーワードには、こんな思いを込めています。

感動いっぱい...「感性」を養うこと。自らを「律する」こと。  
夢いっぱい...「感謝」すること。「人を思いやる」こと。「自分を見つめる」こと。  
いのちいっぱい...「今」と「ここ」にこだわること。「自分を好きになる」こと。

## 1.「感動いっぱい」

「感動」することとは、感性を磨くことです。ひとりひとりの感性を磨くためには、「集団」の力を磨いていくことが重要です。なかまとの関わりの中で様々な考え方に触れ、自分の考え方を改めていったり、深めていったりできます。なかまとともに喜び合ったり、苦しいときには一緒に泣いたり、励まし合ったり、時には意見のぶつかり合いをしながら、多くの感性を磨いていってください。  
「律する」ことは、社会性を磨くことにつながります。秩序やルールを守ること、規範意識を高めることは、みんなにとっては「自由の束縛」というイメージを持ちがちですが、本当は真逆です。秩序やルールがあるからこそ生活は成り立ちます。自分を律し、苦しいことに自ら飛び込んでいってください。その先にあるものは、達成感から生まれる「感動」です。

## 2.「夢いっぱい」

みんなの夢がどんどん広がっていくように応援していきます。  
夢を持つということは、過去や未来を語ることを意味します。自分の生き方を語ることを意味します。過去や未来を語るためには、「今の自分を見つめる」ことは欠かせません。今の自分があることを当たり前だと思わないでください。今の自分があるのは、自分を取り巻く多くの人の存在があるからです。そこに気付ける人から溢れ出る言葉は、「ありがとう」の感謝の言葉しかありません。「感謝」の心と、人を思いやる「敬愛」の心と、「自分を見つめる」心を持ってください。

## 3.「いのちいっぱい」

全ては「百日草」に込められています。1日という時間の重さを感じながら、日々を精一杯生きていってください。だからこそ、「今(時間)」と、「ここ(場所)」を大切にしてほしいと思っています。全力で日々を生きていけば、みんなは自分のことがもっともっと大好きになるはずです。1年後の自分の姿、学級の姿を思い描きながら、力強く生きていってください。